

イタリア文化論Ⅰ

科目ナンバリング EUS-109
選択 2単位

横田 太郎

1. 授業の概要(ねらい)

イタリアといえば、優れた美術や音楽、また、デザインや料理、あるいは、サッカーなどが思い浮かぶことでしょう。しかし、イタリア、とくに1400年代のフィレンツェは、学問とはなにかという問題について、大いに議論がなされた土地でもあります。当時の学問とは、すなわち読書です。そこで、この授業では「読書とはなにか」という疑問を、人文主義者の言葉を通して考えていきます。

春季は、桂冠詩人、フランチェスコ・ペトラルカから、いわゆる市民的人文主義の旗手、レオナルド・ブルーニに至る人文主義者たちが残した言葉に焦点をあて、読書がいかに称賛され、積極的に評価されていたのかを確認していきます。

2. 授業の到達目標

我々にとってなじみのうすい人文主義者の思想に触れて、イタリア文化についての理解を深める。
人文主義者の思想に、我々のそれとは異なる部分と同時に、共通する部分もあることを認識する。

3. 成績評価の方法および基準

出席、リアクションペーパー、授業への参加態度、期末試験(受講生の数によってはレポート)により、総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

適宜プリントを配布します。

5. 準備学修の内容

基本的に予習の必要はありませんが、事前に配布したプリントに目を通してきてもらう場合もあります。

6. その他履修上の注意事項

授業では、人文主義者によるテキスト(主に和訳)を、みなで一緒に読んでいきます。新たに触れる思想に対する自分なりの意見を、リアクションペーパー、グループ・ワーク、授業内での発言を通して、積極的に表現してもらいます。そのためにも、授業には必ず出席してください。

なお、以下の授業計画は、あくまでも計画です。授業の進み具合、また、受講生の興味に応じて、変更する可能性があります。

7. 授業内容

【第1回】	イントロダクション
【第2回】	ルネサンスにおける読書とは
【第3回】	同上
【第4回】	同上
【第5回】	市民的人文主義／人文学とは
【第6回】	同上
【第7回】	同上
【第8回】	同上
【第9回】	人文主義者からみた中世
【第10回】	同上
【第11回】	同上
【第12回】	人文主義者の思想が示す矛盾
【第13回】	同上
【第14回】	同上
【第15回】	まとめ